



# 営農タイムリー！

## 発生予察情報について(9月)



2022年9月9日発行

### 今後注意すべきその他の病害虫等

#### 野菜

##### 1. トマト黄化葉巻病及びトマト黄化病

トマト黄化葉巻病は、黄化葉巻ウイルス( TYLCV: Tomato Yellow Leaf Curl Virus)の感染により引き起こされる病気で、症状は、先端部の葉が内側に巻く、葉縁が黄化、株の萎縮等で、タバココナジラミによって媒介される。

トマト黄化病はトマト退緑ウイルス(ToCV:Tomato chlorosis virus)の感染により引き起こされる病気で、症状は葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し、生理障害の苦土(マグネシウム)欠乏の症状に類似し、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介される。府内での発生を昨年6月に初確認している。

##### 2. タバココナジラミ

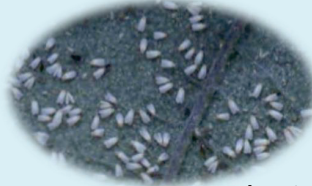
タバココナジラミは世界中に分布し、多くのバイオタイプ(形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統)が存在する。本州では在来系統(バイオタイプJ p L等)、バイオタイプB、バイオタイプQが確認されている。

バイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、以下の3点を防除対策の基本事項として、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

- 施設内にコナジラミを「入れない」。
  - (1) 開口部の防虫ネット被覆。
  - (2) 黄色粘着ロールの展張。
  - (3) 近紫外線カットフィルムの使用。
- 施設内・施設周辺のコナジラミを「増やさない」。
  - (1) 発生初期の防除の徹底。
  - (2) 薬剤のローテーション防除の実施。
  - (3) 天敵や微生物農薬の有効利用。
- 施設内からコナジラミを施設外に「出さない」。
  - (1) 開口部の防虫ネット被覆。

## コナジラミ類

- オンシツコナジラミ
- タバココナジラミ



オンシツコナジラミ



タバココナジラミ  
成虫



タバココナジラミ  
幼虫

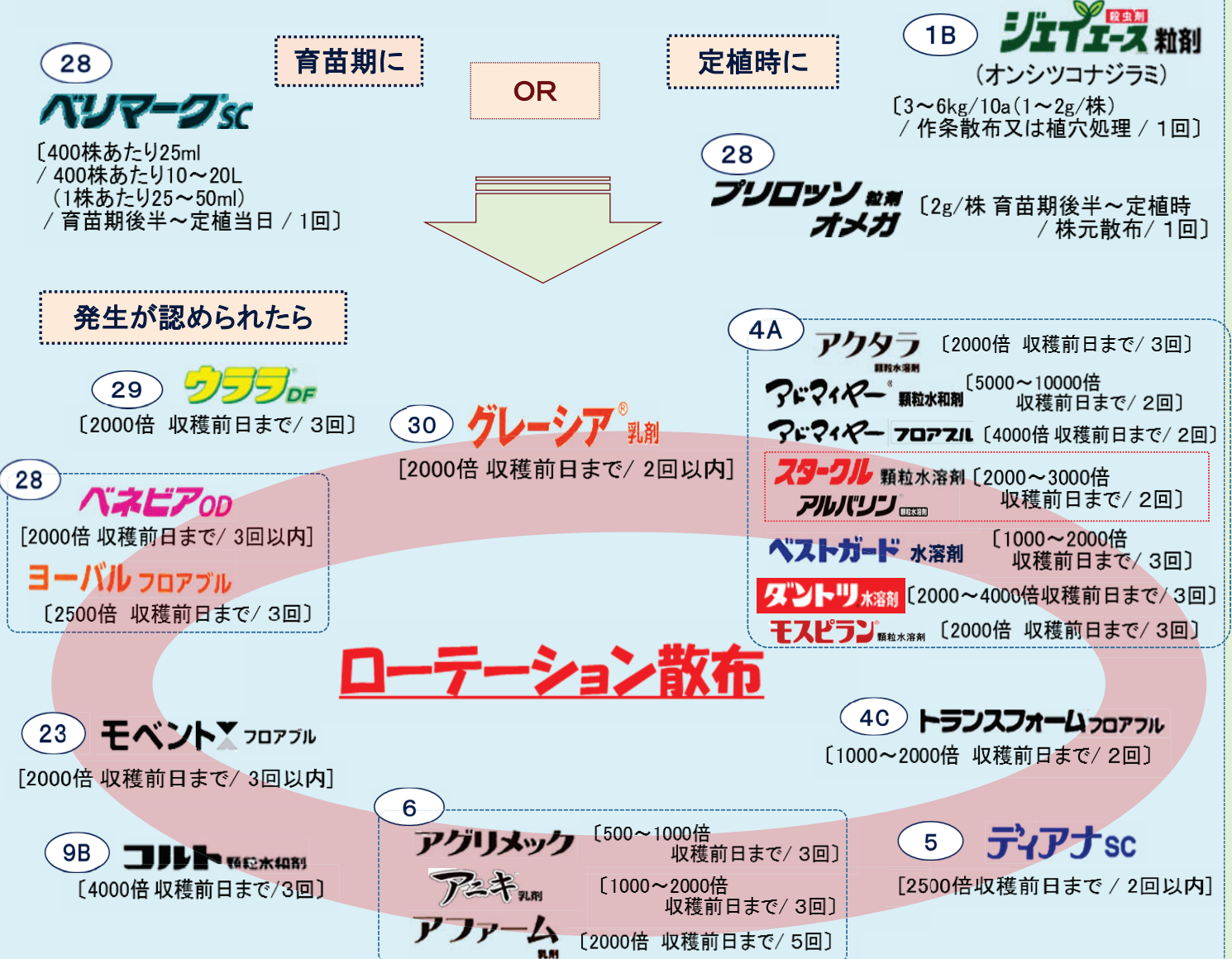
形態：成虫は両種とも体長約1.5mmで翅は白粉に覆われるが、タバココナジラミは翅が葉面に対して45度以上の角度となるのに対しオンシツコナジラミは葉面とほぼ平行になる。蛹はいずれも0.8～1mmであるが、オンシツコナジラミは外縁部にトゲ状の分泌物がある。

生態と被害：いずれも施設内では周年発生し、発生回数は施設内では年間10回以上。ナス科以外にも各種ウリ類、インゲン、花卉類など広範囲の作物に寄生する。幼虫が葉を吸汁するが、**ウイルス病の媒介や高密度時のすす病も問題が多い**。特に、**タバココナジラミはトマトの黄化葉巻病を媒介し、問題が多い**。トマト果実に放射状に未着色の部分を生じる着色異常を発生させることもある。

防除の

ポイント：● **寒冷紗、スマイルチャッチ、金竜、ITシート(イエロー)の使用。**

## ■ トマト コナジラミ類の防除体系例



### 3. オオタバコガ、タバコガ

8月第3 半旬現在、府内のフェロモントラップへの誘殺数は亀岡市のオオタバコガで平年比多く、京田辺市のタバコガで平年比やや多い。これらの害虫は発生が多くなると、大きな被害になるので注意する。特にナス、トマト等の果実に食入すると薬剤の効力が低下するので、早期発見に努め、食入前の防除に留意する。

### 4. 軟腐病（キャベツ、ハクサイ、カブなど）

発生すると大きな被害となるので予防防除に努める。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) ほ場の排水に努め、雨水が停滞しないようにする。施肥は、窒素過多にならないよう注意する。
- (2) 台風等の風雨による傷や泥のはね上げにより発病が助長される。また、キスジノミハムシ、コオロギ等食葉性害虫の食害痕から細菌が侵入して発病することが多い。
- (3) 台風等による強い降雨の後や害虫の食害が目立つ場合は、早期防除に努める。

### 5. ハイマダラノメイガ〔ダイコンシンクイムシ〕（アブラナ科）

生育初期に加害されると欠株等が生じ、大きな被害となるので注意する。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 8月下旬以降、10月下旬頃まで発生する。
- (2) 株の生長点部を食害するため、被害株は生育が停止したままとなったり、枯死するものが多い。
- (3) 苗床や定植直後によく観察し、発生を認めたら直ちに防除する。
- (4) は種直後から寒冷しゃ等で被覆を行い、産卵を防ぐ。

### 6. ネギべと病

盛夏期の高温により発生は一旦終息しているが、ほ場にすき込まれた罹病残さ等が感染源となり、気温が20℃を下回る10月中旬以降は、病原菌の活動が再び活発になるので、発生には十分注意する。

## べと病

**病徴と診断** : 初めに葉・花梗に紡錘形の黄白色・大型病斑を形成し、灰白色の薄いカビを生じる。その後カビは暗褐色～暗紫色になる。病斑部の周縁は明瞭で、病勢が進むと黄白色～灰白色となり葉枯れを生じ枯死する。

### 伝染経路と

**発病条件** : 病原菌は被害植物とともに菌糸、卵胞子の形で越冬する。翌年、気温が上昇し、降雨があると分生胞子を生じ伝染する。4～5月、10～11月頃に雨が続きと多発する。

### 防除の

- ポイント** :
- 苗床は薄まきにし、肥料を多く施用しない。
  - 薬剤防除は発病前に重点をおき、薬液が付着しにくいので展着剤を加用する。

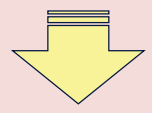


## ■ ネギ ベと病 の防除体系 例

I: UN, M03(M)

- ペンコゼブ** 水和剤 [600倍 収穫14日前まで/ 3回以内]
- ペンコゼブ** フロアブル [500～600倍 収穫14日前まで/ 3回以内]
- シマンタレン** 水和剤 [600倍 収穫14日前まで/ 3回以内]

発病前は



予防剤を **ローテーション散布**

M05(M) **ダコニール1000**  
[1000倍 収穫14日前まで/ 3回以内]

発病が認められたら

U17(U) **ピシロック** フロアブル  
[1000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

- 11(C3) **アミスター20** フロアブル [2000倍 収穫3日前まで/ 4回以内]
- メジャー** フロアブル [2000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

3(G1) I: UN, M03(M) **テーク** 水和剤  
〔サンリット+マンゼブ〕  
[600倍 収穫14日前まで/ 3回以内]

40(H5) **レーバス** フロアブル  
[2000倍 収穫7日前まで/ 2回以内]

治療剤を加えた **ローテーション散布**

4(A1) M05(M) **フォリオゴールド**  
〔リトミル+ダコニール〕  
[800～1000倍 収穫14日前まで/ 3回以内]

40(H5) M05(M) **カーニバル** 水和剤  
〔フェスティバル+ダコニール〕  
[1000倍 収穫14日前まで/ 3回以内]

40(H5) M05(M) **プロポーズ** 顆粒水和剤  
〔マモット+ダコニール〕  
[1000倍 収穫14日前まで/ 3回以内]